



## 平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年7月30日

上場会社名 株式会社いなげや 上場取引所 東  
 コード番号 8182 URL <http://www.inageya.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 成瀬 直人  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役IR担当(兼) 管理本部長 (氏名) 大庭 寿一 TEL 042-537-5111  
 四半期報告書提出予定日 平成25年8月6日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無  
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績（平成25年4月1日～平成25年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	56,071	4.3	53	△80.6	190	△50.7	73	—
25年3月期第1四半期	53,743	△1.0	273	△60.6	386	△52.1	△190	—

(注) 包括利益 26年3月期第1四半期 132百万円 (—%) 25年3月期第1四半期 △264百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	1.58	—
25年3月期第1四半期	△4.10	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第1四半期	95,952	46,799	48.4
25年3月期	93,926	47,022	49.7

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 46,487百万円 25年3月期 46,725百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	7.50	—	7.50	15.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	7.50	—	7.50	15.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	115,000	6.4	800	△20.1	950	△18.9	500	165.2	10.77
通期	233,000	5.5	3,000	△14.3	3,300	△14.2	1,400	△46.6	30.15

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無  
新規 ー社 （社名）ー 、除外 ー社 （社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年3月期1Q	52,381,447株	25年3月期	52,381,447株
② 期末自己株式数	26年3月期1Q	5,943,000株	25年3月期	5,942,879株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	26年3月期1Q	46,438,504株	25年3月期1Q	46,438,894株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

1. 平成25年5月7日に公表いたしました平成26年3月期連結業績予想より変更はございません。
2. 本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(四半期連結貸借対照表関係) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	9
3. 補足情報 .....	11
(1) 設備投資の状況 .....	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政権交代後の経済・財政政策に対する期待感から回復の兆しが見られたものの、欧州債務危機問題、中国経済鈍化などの海外景気の下振れや消費税率の引上げなどの懸念材料もあり、景気の先行きは依然として不透明な状況にあります。

このような状況のもと、当社グループは、「食を通して地域に貢献するお役立ち業」を目指し、お客様のご要望の高い調理済・半調理商品の品揃えを強化するとともに、店舗コンセプトをこれまでの「生鮮プラス惣菜」から「惣菜プラス生鮮」の方向に転換し、食の生活シーンを想定した売場づくりに取り組んでまいりました。

当第1四半期連結累計期間における経営成績は、昨年10月に連結子会社になった㈱三浦屋の業績貢献もあり、営業収益が560億71百万円（前年同四半期比4.3%増）、売上高が541億6百万円（同4.6%増）となりました。売上総利益率が0.4ポイント改善し、売上総利益は145億79百万円（同6.3%増）と増益を確保いたしました。一方、販売費及び一般管理費は、スーパーマーケット事業での増加により164億91百万円（同6.8%増）となりました。

その結果、営業利益は53百万円（同80.6%減）、経常利益は1億90百万円（同50.7%減）、四半期純利益は73百万円（前年同四半期は1億90百万円の四半期純損失）となりました。

当社グループにおける事業セグメントごとの状況は次のとおりです。

#### [スーパーマーケット事業]

中期2ヶ年経営計画のもと、経営基盤安定化のためドミナント化の更なる推進を行い、地域のお客様の暮らしぶりに合わせることで競合他社に対する優位性を高め、一層の収益安定化に努めております。

営業政策としては、商品も売場も従業員もお客様の健康を第一に考え、さらに欲しい商品が沢山ある売場を目指し、楽しい、美味しそうな、鮮度感あふれる、地域にとって無くてはならない店づくりの具現化をすすめてまいりました。

また、店舗を大中小のタイプに分類、基準を明確化し、小型店は「効率化と割安感を提供」、中型・大型店は「豊富な品揃えと惣菜を強化」するなど、それぞれのタイプに適した営業政策をきめ細かく推進して、お客様に支持される店づくりとオペレーションの効率化に努めました。

さらに、お客様により近づいたサービスを提供するため、宅配サービス「届くいなげや」により新たなニーズへの対応に努めております。また、当社独自のポイントシステムを持つ「ing・fan(アイエヌジー・ファン)カード」を活用した販売促進も継続的に強化するなど、引き続き固定客拡大にも努めてまいりました。また、昨年10月に連結子会社となった㈱三浦屋とは「三浦屋の手作りパン」をいなげやで販売するなど、相互協力によりお互いの強みを最大限活かし、いなげやグループとしての事業価値の最大化を図ることでお客様への貢献をより一層高めていけるものと考えております。

設備投資といたしましては、青梅師岡店(東京都青梅市)、横浜西が岡店(横浜市泉区)、浦和ときわ店(さいたま市浦和区)など惣菜および生鮮強化のための改装を8店舗実施し、既存店の活性化を推進いたしました。当第1四半期連結会計期間末での店舗数は、期首からの増減なく140店舗であります。

売上高につきましては、依然としてお客様の節約志向は強く、既存店売上高が前年同四半期比2.8%減と厳しい状況で推移いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間のセグメント別売上高は449億70百万円（前年同四半期比5.4%増）、セグメント損失は2億23百万円（前年同四半期は98百万円の利益）となりました。

#### [ドラッグストア事業]

主力商品の販売強化に継続的に取り組み、価格政策の見直しや収益力の改善に努めるとともに、従業員教育に力を注いでまいりました。また、店舗タイプ別オペレーションの標準化に取り組むなどローコスト運営にも取り組んでまいりました。

設備投資としましては、4月に川崎中野島店(川崎市多摩区)を新設した一方、調布仙川店をリプレイスオープンいたしました。この結果、当第1四半期連結会計期間末での店舗数は111店舗となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間のセグメント別売上高は87億73百万円（前年同四半期比1.6%増）、セグメント利益は2億6百万円（同96.3%増）となりました。

#### [その他]

デイリー食品を製造している㈱サンフードジャパンは、原材料の見直し、製造工程の見直しを進めて効率経営に取り組んでまいりました。ショッピングセンターの運営・管理、警備・清掃などを行っている㈱サビアコーポレーションは、テナント入替による活性化や業務の効率化を進めてまいりました。店舗および附属設備の建設・保守管理を行っている㈱トスにおきましては、当社グループ各社に対してローコスト店舗づくりなど積極的な提案を行ってまいりました。障がい者雇用の推進を目的とした特例子会社㈱いなげやウィングでは労務の提供により店舗業務の支援に努

めてまいりました。さらに本年2月には農産物の栽培生産を行う㈱いなげやドリームファームを設立し農業経営に参入いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間のセグメント別売上高（外部顧客売上高）は3億63百万円（前年同四半期比18.5%減）、セグメント利益は90百万円（同0.2%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

前連結会計年度末日および当第1四半期連結会計期間末日がそれぞれ金融機関休業日にあたり、未日期限決済分を翌営業日に決済しておりますため、買掛金などの未払債務の未日期限未決済分負債とそれに対応する手許流動性資金の資産が共に両建てで膨らんでおり、その金額は前連結会計年度末が94億33百万円、当第1四半期連結会計期間末が103億29百万円でした。

### (資産の部)

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末と比べ20億26百万円増加し、959億52百万円となりました。

流動資産は、12億64百万円増加し、404億円になりました。これは主に、余資の運用である有価証券が135億円、商品及び製品が4億53百万円それぞれ増加した一方で、現金及び預金が110億79百万円、流動資産のその他（未収入金など）が16億27百万円それぞれ減少したことによるものです。

固定資産は、7億62百万円増加し、555億52百万円になりました。これは主に、有形固定資産が6億92百万円、無形固定資産が69百万円それぞれ増加したことによるものです。

### (負債の部)

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末と比べ22億50百万円増加し、491億53百万円になりました。

流動負債は、23億35百万円増加し、372億23百万円になりました。これは主に、買掛金が20億30百万円、短期借入金が5億77百万円、流動負債のその他（未払費用など）が15億81百万円それぞれ増加した一方で、未払法人税等が11億61百万円、ポイント引当金が4億84百万円、1年内返済予定の長期借入金が1億73百万円それぞれ減少したことによるものです。

固定負債は、85百万円減少し、119億29百万円になりました。これは主に、退職給付引当金が2億9百万円、資産除去債務16百万円、固定負債のその他（リース債務など）が76百万円増加した一方で、長期借入金が3億87百万円減少したことによるものです。

### (純資産の部)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比べ2億23百万円減少し、467億99百万円になりました。これは主に、四半期純利益で73百万円増加した一方で、配当金の支払いで3億48百万円減少したことにより利益剰余金が2億75百万円減少したことによるものです。以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ1.3ポイント下がり、48.4%になりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成25年5月7日公表時から変更しておりません。なお、業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しておりますが、実際の数値は今後様々な要因により予想数値と異なる結果になる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	※ 16,511	※ 5,431
売掛金	2,438	2,458
有価証券	※ 6,000	※ 19,500
商品及び製品	7,636	8,089
仕掛品	7	12
原材料及び貯蔵品	249	242
その他	6,293	4,665
貸倒引当金	△0	—
流動資産合計	39,136	40,400
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	12,132	11,938
土地	18,029	18,150
その他（純額）	3,671	4,436
有形固定資産合計	33,833	34,525
無形固定資産		
のれん	1,658	1,632
その他	810	904
無形固定資産合計	2,468	2,537
投資その他の資産		
投資有価証券	4,530	4,590
差入保証金	10,802	10,739
その他	3,180	3,183
貸倒引当金	△25	△24
投資その他の資産合計	18,488	18,488
固定資産合計	54,789	55,552
資産合計	93,926	95,952
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	※ 22,113	※ 24,144
短期借入金	—	577
1年内返済予定の長期借入金	1,999	1,826
未払法人税等	1,302	141
役員賞与引当金	34	—
ポイント引当金	1,296	811
その他	※ 8,140	※ 9,722
流動負債合計	34,888	37,223
固定負債		
長期借入金	4,038	3,650
退職給付引当金	1,695	1,904
資産除去債務	2,952	2,968
その他	3,328	3,405
固定負債合計	12,015	11,929
負債合計	46,903	49,153

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,981	8,981
資本剰余金	13,598	13,598
利益剰余金	28,802	28,527
自己株式	△6,118	△6,118
株主資本合計	45,263	44,988
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,461	1,498
その他の包括利益累計額合計	1,461	1,498
少数株主持分	297	312
純資産合計	47,022	46,799
負債純資産合計	93,926	95,952

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
営業収益	53,743	56,071
売上高	51,743	54,106
売上原価	38,026	39,526
売上総利益	13,716	14,579
営業収入	2,000	1,965
営業総利益	15,717	16,544
販売費及び一般管理費	15,443	16,491
営業利益	273	53
営業外収益		
受取利息	21	19
受取配当金	33	36
助成金収入	53	28
その他	30	73
営業外収益合計	139	158
営業外費用		
支払利息	25	20
その他	0	0
営業外費用合計	26	20
経常利益	386	190
特別損失		
固定資産処分損	22	5
減損損失	549	—
その他	16	—
特別損失合計	588	5
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△201	185
法人税、住民税及び事業税	107	119
法人税等調整額	△129	△28
法人税等合計	△21	90
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△180	94
少数株主利益	10	21
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△190	73



(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△180	94
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△84	37
その他の包括利益合計	△84	37
四半期包括利益	△264	132
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△274	110
少数株主に係る四半期包括利益	10	21

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はございません。

(四半期連結貸借対照表関係)

※ 前連結会計年度末日および当第1四半期連結会計期間末日がそれぞれ金融機関休業日にあたるため、末日期限決済分は翌営業日に決済処理しております。このため、それぞれの期末日現在では、次の未決済負債残高が増加しており、また、それに見合う手許流動性資金（「現金及び預金」ならびに「有価証券」）が増加しております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
買掛金	8,279百万円	8,991百万円
その他（流動負債）	1,153	1,337
計	9,433	10,329

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)  
 該当事項はございません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	スーパー マーケット 事業	ドラッグ ストア 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	42,666	8,631	51,297	445	51,743	—	51,743
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	0	0	1,669	1,669	△1,669	—
計	42,667	8,631	51,298	2,114	53,413	△1,669	51,743
セグメント利益	98	105	203	91	294	△21	273

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産管理業、食品製造業、建設業、店舗支援業務の請負を営んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、全額セグメント間取引消去によるものです。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を図っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「スーパーマーケット事業」、「ドラッグストア事業」および「その他の事業」セグメントにおいて、営業活動から生ずる損益が継続してマイナスである店舗及び環境の変化に伴い収益構造の悪化が著しい店舗等における資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。そのセグメント別減損損失の金額は以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	スーパーマ ーケット事業	ドラッグストア 事業	計		
減損損失	536	1	538	10	549

(注) 「その他」の金額は、不動産管理業に係る金額であります。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	スーパー マーケッ ト事業	ドラッグ ストア 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	44,970	8,773	53,743	363	54,106	—	54,106
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	0	0	1,746	1,746	△1,746	—
計	44,970	8,773	53,743	2,109	55,852	△1,746	54,106
セグメント利益又は 損失(△)	△223	206	△17	90	73	△20	53

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産管理業、食品製造業、建設業、店舗支援業務の請負及び農業経営であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額は、全額セグメント間取引消去によるものです。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を図っております。

3. 補足情報

(1) 設備投資の状況

①重要な設備計画の完了

前連結会計年度末に計画に計画中であった重要な設備の新設のうち、当第1四半期連結累計期間において完了したものは次のとおりであります。

会社名	所在地	セグメントの名称	設備名	設備の内容	投資金額 (百万円)	売場面積 (㎡)	着工及び 完了年月		年間売上 予定額 (百万円)
							着工	完了	
㈱ウェルパーク	川崎市 多摩区	ドラッグ ストア事業	川崎中野島店	新設店舗	76	429	平成25年 1月	平成25年 4月	360

(注) 年間売上予定額は、開店時から1年間の売上見込額であり、消費税等は含まれておりません。

②重要な設備の新設計画

当第1四半期連結累計期間において、新たに確定した重要な設備の新設計画は、次のとおりであります。

会社名	所在地	セグメントの名称	設備名	設備の内容	投資予定金額		売場面積 (㎡)	着工及び 完了予定年月		年間売上 予定額 (百万円)
					総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着工	完了予定	
㈱いなげや ㈱クックサン	東京都 練馬区	スーパー マーケット 事業	下石神井店	新設店舗	710	220	1,900	平成25年 4月	平成25年 9月	2,100
	東京都 世田谷区		(仮)世田谷 桜新町店	新設店舗	650	323	950	平成25年 4月	平成25年 11月	1,500
	東京都 西東京市		(仮)西東京 富士町店	新設店舗	310	39	900	平成25年 5月	未定	1,400
	東京都		未定 (2店舗)	新設店舗	未定	未定	未定	未定	未定	未定
㈱ウェルパーク	埼玉県 所沢市	ドラッグ ストア事業	調剤薬局 新所沢店	新設店舗	10	1	55	平成25年 4月	平成25年 7月	30
	東京都 町田市		町田金森店	新設店舗	89	—	450	平成25年 7月	平成25年 9月	280

(注) 1. 年間売上予定額は、開店時から1年間の売上見込額であり、消費税等は含まれておりません。

2. 各設備資金の調達につきましては、自己資金及び借入金にて行う予定であります。